

群馬県立がんセンターで加療中の方へ

群馬県立がんセンター 婦人科では、子宮頸癌の病気で入院・通院されていた患者さんの診療情報を用いた研究を実施しております。この研究を実施することによる患者さんへの新たな負担は一切ありません。また、患者さんのプライバシーの保護については法令等を遵守して研究を行います。

あなたの試料・情報について、本研究への利用を望まれない場合には、担当医師にご連絡ください。

研究課題

“閉経前に子宮頸癌にて放射線一次治療を受けた患者の治療成績と有害事象に関する後方視的検討”

研究施設

主任施設

群馬県立がんセンター婦人科

研究責任者 中村 和人 研究分担者：山下 宗一、西村 俊夫

共同研究機関

群馬県立がんセンター放射線科

北本 佳住、村田 真澄

群馬大学医学部附属病院放射線科

責任者：大野 達也 分担者：安藤 謙

研究期間

調査対象期間：2013年1月1日から2021年12月31日の間に治療開始前の診断で治療を受けた、子宮頸癌の患者。

データ収集期間：倫理委員会承認時～2026年12月31日まで

研究対象となる方

2013年1月1日から2021年12月31日に、群馬県立がんセンター並びに群馬大学医学部附属病院にて、一次治療として放射線治療を受けられた患者

研究目的

子宮頸癌の罹患のピークは 40 歳前後であり、かなりの割合の患者が閉経前に治療を受けている。閉経前の患者では子宮頸癌初期の患者に対して、可能ならば 手術治療が選択されることがほとんどである。その一方で、術後治療で放射線治療が追加される可能性が高い患者並びに手術適応がない患者には、一次治療として放射線治療あるいは化学療法放射線同時併用療法が用いられる。放射線治療により卵巣機能は廃絶し、医源的早発閉経を生じる場合もある。そのためホルモン補充療法を行われることもあるが、希望されない患者もいる。今回の研究では閉経前に放射線一次治療を行われた患者において、その治療成績とホルモン治療の有無による放射線晩期障害の差について検討しようと考えている。単一施設での症例集積では、解析に必要な症例数を確保することは困難と考えられるため、多施設共同研究として本研究を計画した。

研究方法

診療録から以下の患者さんの情報を収集し、解析します。従って、患者さんには新たな負担は発生しません。

調査内容：年齢、BMI、進行期、組織型、放射線治療内容、ホルモン治療の有無、血中コレステロール値、腰椎の骨量、放射線治療による晩期有害事象、予後

患者情報の保護

個人情報、試料、データ等を正確に検証が可能なように記録し、外部からのアクセスができない場所に保管します。公表の際には個人を特定できないようにして行います。患者の氏名、生年月日、カルテ番号、イニシャルなど患者が同定できる情報は用いませんが、追加調査が必要になる可能性もあります。その場合に備えて、各研究施設において符号を用いて患者情報を保管し、追加調査に対応できるようにする予定です。

研究成果の公表

本研究の成果は、提供者本人及び家族の氏名等が明らかにならないようにして、学会発表や学術雑誌等で公に発表することがあります。

問い合わせ先

373-8550 太田市高林西町 617-1 群馬県立がんセンター婦人科
中村 和人
電話 0276-38-0771 Fax 0276-38-8386